

彙 報

会 長 柴 谷 方 良

平成10年度第1回常任委員会

日 時：平成10年4月11日（土）午前9時～午後7時

場 所：神戸大学文学部1階会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪蘭晴夫（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、影山太郎、田窪行則、西光義弘、原田かつ子、吉田和彦

オブザーバー：庄垣内正弘（編集委員長）、藤井義久（事務局長補佐）、松瀬育子（事務局長補佐）

報告事項

- (1) 日本英語学会と共同作成した『学術用語集 言語学編』が日本学術振興会より出版された（丸善販売 価格4,200円（税別））。
- (2) 国際アジア・北アフリカ研究会議の国内委員会委員を早田輝洋氏に委嘱した。本件については、10年2月25日開催の国内委員会の通知が1月27日梅田前会長宛てに届き、2月8日に梅田氏より交替の希望が柴谷現会長に伝えられた。時間の関係上、選挙による選出は不可能と判断され、常任委員会にて人選を行うこととなり、その結果、旅費の関係上東京在住の候補者ということで、早田輝洋氏を推挙することを全会一致で決定した。
- (3) 夏期講座検討小委員会（西光座長）、国際関係作業部会（井出座長）、大会関係作業部会（影山座長）より活動状況が報告された〔詳細は委員会記録参照〕。

審議事項

- (1) 平成9年度決算報告
平成8年度の決算報告があり、了承された（別表1参照）。
- (2) 平成10年度予算
事務局作成の予算案を審議し、一部修正の上、委員会へ提出する案を作成した。この中で、中西印刷学会フォーラムに委託している学会事務の委託費について、会員数増加に応じて年間20万円の増額を認めた。また、これまで「積立金」として計上してきた支出項目について、「夏期

講座積立金」などの使途別に分割することを決めた（別表2参照）。

- (3) 第116回大会（平成10年春季大会）について
6月20日、21日に慶應義塾大学で開催予定の大会について、講演者、研究発表者などの詳細を決め、プログラムを決定した。研究発表については、応募総数67件から50件を採択した。審査に際しては今回から応募者名を伏せた覆面審査を行った。
- (4) 第117回大会（平成10年秋季大会）について
10月31日、11月1日の両日、山口大学（山本和之運営委員長）で開催することを承認し、講演、シンポジウム等の素案を作成した。シンポジウムのテーマは「フィールド言語学と理論」となった。
- (5) 第118回大会（平成11年春季大会）について
来年6月中頃に東京都立大学で行う。詳細は次回の常任委員会で検討する。
- (6) 常任委員（吉田委員）の代理
吉田和彦委員の在外研修に伴い、1998年7月から1年間、樋口康一氏に代理を依頼することを決定した。
- (7) 事務局関連事項
大会費の支出額、講演等謝金、事務局負担軽減、プログラムの構成、予稿集の分量、ポスター作成の可能性等について審議した。大会費については1大会当たりの開催校への送付金を現行の30万円から10万円増額し、その中に講演等講師への謝金も含めることとなった。プログラムの構成については会員から寄せられた意見を採用し、1会場1ページのレイアウトとすることを承認した。
- (8) 編集委員追加の件
編集委員会より出されていた編集委員追加の案を検討し、これを了承した。
- (9) 会員資格の件
名簿上の会員数と会費納入者数との間に少なからぬずれが生じていることについて検討した。最終的には委員会で審議する。

平成10年度第1回委員会

日 時：平成10年6月20日（土）午前10時～午後1時

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス北新館4階会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪蘭晴夫（事務局長）、池上二良、井出祥子、井上和子、大津由紀雄、荻野綱男、影山太郎、梶 茂樹、加藤正信、菊地康人、金水 敏、国広哲弥、久保智之、小泉 保、坂本比奈子、崎山

理, 清水克正, 城生伯太郎, 庄垣内正弘, 杉戸清樹, 田窪行則, 竹内和夫, 田村すず子, 津曲敏郎, 徳川宗賢, 西光義弘, 林 徹, 早田輝洋, 原口庄輔, 原田かづ子, 樋口康一, 平野尊識, 松村一登, 松本克己, 宮岡伯人, 藪 司郎, 油谷幸利, 吉田和彦, 吉田 豊 (以上40名)

委任状 : 28名

オブザーバー : 角田太作 (会計監査委員), 湯川恭敏 (会計監査委員), 奈良毅 (危機言語小委員会委員長), 梅田博之 (前会長), 西山祐司 (第116回大会運営委員長), 藤井義久 (事務局長補佐), 松瀬育子 (事務局長補佐)

報告事項

議事と報告に先立って大会開催校を代表して西山佑司氏より挨拶があった。

(1) 会長からの報告

会長より現在の会員数と平成10年度第1回常任委員会について報告があった。具体的な内容は次の通りである (小委員会, 作業部会については下記 (4) を参照)。

- (A) 平成10年4月1日現在の会員数は個人会員1,934名, 団体会員144名, 合計2,078名 (但し会費納入は1,956件) である。詳細は次の通り (括弧内は会員数) : 国内個人会員 [1,853], 維持会員 [10], 国内団体会員 [132], 賛助会員 [3], 在外個人会員 [71], 在外団体会員 [9]。
- (B) 第116回大会 (平成10年度春季大会) の研究発表について, 覆面審査の結果, 67件の応募の中から50件を採択した。
- (C) 総会の参加者増加を図るために, 大会2日目の昼休みではなく, 1日目の懇親会の前に移行する。
- (D) 常任委員の一人である吉田和彦氏が1998年7月から1年間在外研修に出ることになったため, その間の代理を樋口康一氏が務める。

(2) 『学術用語集 言語学編』 (日本学術振興会出版, 丸善販売) について
日本英語学会と共同作成した『学術用語集 言語学編』が日本学術振興会により出版された (丸善販売 価格4,200円 (税別))。今後『言語研究』等を通じて, 会員に向けて宣伝をする必要がある。

(3) 国際アジア・北アフリカ研究会議 国内委員会委員について
上記委員を早田輝洋氏に委嘱した。

(4) 委員会・作業部会の活動報告

各種委員会, 作業部会の懸案事項及び活動計画について, 各委員長, 座長より以下のような説明があり, 質疑を行った。また, 学会選出委員である田村すず子氏 (日本学術会議, 語学・文学研究連絡委員会委員) と

早田輝洋氏（国際アジア・北アフリカ研究会議 国内委員会委員）からそれぞれ報告があった。

(A) 編集委員会（委員長：庄垣内正弘）

- ・編集作業の増加に伴い、阿部泰明・金水敏の両氏を新たに委員として委嘱する。
- ・『言語研究』の論文をすべて右ページ始まりにそろえる。

(B) 危機言語小委員会（委員長：奈良 毅）

- ・現行の委員18名を委員として確定し、その任期を2,000年3月31日までとする。
- ・「日本および周辺地域における危機言語」に関する公開シンポジウムを10月3日、4日の両日、清泉女子大学にて開催する計画である。
- ・若手言語学者を中核とする「危機言語」調査・研究プロジェクトチームを発足させるため、研究者リストを作成し、研究者同士の情報・意見交換を図る。
- ・1999年に早稲田大学で開催される第12回国際応用言語学会 (AILA) 世界大会に積極的に参加し、危機言語の一つとしてアイヌ語をテーマとしたシンポジウム等を企画する。
- ・小委員会の目的と役割を明確にするため、委員会規約を定める。

(C) 夏期講座検討小委員会（委員長：西光義弘）

- ・前回の委員会でメンバー選出が常任委員会に一任されたが、西光義弘、原田かつ子、田窪行則、荻野綱男、松村一登、梶 茂樹の6名に決定した。
- ・1999年8月に第1回の夏期講座を開催する方向でプログラム・講師等の検討を進める。

(D) 国際関係部会（座長：井出祥子）

- ・海外在住会員及び日本語を母語としない会員を対象に行ったアンケート調査結果を集計した結果、会費納入方法の改善などいくつかの検討課題が見いだされた。
- ・第12回国際応用言語学会に言語学会としてシンポジウム等の企画を図る方向で引き続き検討を進める。
- ・2001年にカリフォルニア州サンタバーバラで開催される Pacific Rim Linguistics Institute に、日本言語学会としても講師派遣や参加者（大学院生）への経済的援助など、積極的な貢献の道を引き続き検討していく。
- ・名誉会員に関する会則の整備を検討する。

(E) 大会関係作業部会（座長：影山太郎）

- ・大会運営（準備）委員会の設置をはじめとする作業の効率化と、大会の活性化を図る。

(F) 事務局

- ・日本語を母語としない会員のために大会発表申込規定及び『言語研究』投稿規定の英語版を作成したい。この件については大会関係作業部会、編集委員会とそれぞれ検討を進める。
- ・学術情報センターより『言語研究』を電子化し、広く一般に情報開示する依頼が届いているので、この可能性を検討する。
- ・会費納入について、クレジットカードや銀行口座からの自動引き落としを利用しての納入方法を検討したい。
- ・学会のホームページを開設することを前向きに検討する。

審議事項

(1) 平成9年度決算報告

平成9年度の決算報告があり、質疑の上、了承された。これは1998年4月6日、会計監査委員角田太作・湯川恭敏両氏により、適正であると認められたものである（別表1参照）。尚、実績が予算と大きく異なったところは次の通りである。

(A) 収入

- ・「雑誌売上」の実績が予算より100万円ほど多くなった。これは大会プログラムや予稿集を通じての『言語研究』バックナンバーの宣伝が功を奏したものと思われ、単年度限りの傾向と考えられる。
- ・「大会関係収入」の実績が予算の2倍近くになっているが、この大半は大会への参加者が多く、予稿集が予想以上に売れたことによる。
- ・「雑収入」の実績が予算の7倍に達している。これは『学術用語集 言語学編』（上記「報告事項」の2）の印税が入ったことによる単年度限りの収入増である。

(B) 支出

- ・『言語研究』の「刊行費」が予算の8割弱しか使わなかったが、これは例年と大差はない。
- ・「大会関係費」の実績が予算を2割ほどオーバーしている。これは大会への参加者増に伴い予稿集の刊行経費が予想以上にかかったことによる。
- ・「雑費」の実績が予算の3倍近くとなったが、これは上記『学術用語集 言語学編』の刊行に伴い、執筆者をはじめ刊行に尽力した会員へ1冊

ずつ献本したことによる。

(2) 平成10年度予算

平成10年度予算案の説明があり、質疑の上、支出計画の一部を修正し、これを承認した（承認案は別表2の通り）。尚、予算の大枠について、昨年度までと大きく異なるところは次の通りである。

- ・危機言語小委員会と夏期講座検討小委員会の2つの小委員会費を独立した科目として計上した。
- ・前回の委員会決定に従い、積立金を用途別に項目化して計上した。具体的には「夏期講座積立金」「国際関係積立金」「危機言語プロジェクト積立金」「記念大会積立金」以上の4科目である。
- ・事務委託費を20万円（年間）増額し、消費税分も加えて計上した。

(3) 第117回大会（平成10年秋季大会）について

10月31日、11月1日の両日、山口大学を会場に開催することが了承された（運営委員長は同大学の山本和之氏）。同大学を代表して平野尊識氏より挨拶があった。

(4) 第118回大会（平成11年春季大会）について

平成11年6月19、20日の両日、東京都立大学で行う。

(5) 会員資格について

会員名簿上の会員数と会費納入者数との間にずれが生じていることについて検討し、学会会則「会費未納者の取り扱いについて」第2項（「その年度の『言語研究』の最初の号が発行されるまでに、前年度の会費を納めていない会員は退会したものとみなす。」）に沿って、退会者として取り扱うことを認めた。

(6) 科学研究費補助金審査員の推薦について

日本学術会議より平成11年度科学研究費補助金審査員の推薦依頼があった旨説明があり、第1段審査員候補者4名、第2段審査員候補者2名を6名連記の投票により決定した（氏名は非公開）。

(7) 「危機言語」に関する公開シンポジウムの開催

危機言語小委員会から提案のあった「日本および周辺地域における危機言語」に関する公開シンポジウム開催（上記「報告事項」の4B参照）について審議し、その大枠を承認した。ただし予算については同小委員会の申請額（109万円）の詳細に対して質疑があり、特に講師旅費と予稿集の項目については、その根拠を明確にし、学会執行部の検討を経てからの執行とすることに決定した。

〔別表1〕平成9年度 日本言語学会決算

自 平成9年4月 至 平成10年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,770,000	刊 行 費	5,472,180
雑 誌 売 上	1,915,875	発 送 費	378,270
文 部 省 補 助 金	600,000	編 集 費	544,876
預 金 金 利	20,138	事 務 委 託 費	3,780,000
大 会 関 係 収 入	1,988,100	大 会 関 係 費	2,787,087
雑 収 入	352,342	委 員 会 費	231,660
		常 任 委 員 会 費	363,632
		C I P L 負 担 金	100,000
		選 挙 関 係 費 積 立 金	300,000
		名 簿 作 成 費 積 立 金	500,000
		通 信 費	363,316
		事 務 局 費	292,043
		消 耗 品 費	288,183
		予 備 費	0
		雑 費	155,809
		積 立 金	2,200,000
収 入 合 計	18,646,455	支 出 合 計	17,757,056
前 期 繰 越	3,884,130	次 期 繰 越	4,773,529
計	22,530,585	計	22,530,585

*積立金は、言語学振興事業のための基金的積立

◇収入内訳(単位 円)

会費

国内個人会員会費	12,237,000
国内団体会員会費	952,000
国内維持会員会費	90,000
国内賛助会員会費	30,000
在外個人会員会費	384,500
在外団体会員会費	76,500
合 計	13,770,000

雑誌売上

三省堂書店	154,000
松香堂書店	996,325
丸 善	138,600
その他書店	100,800
バックナンバー売上	526,150
合 計	1,915,875

文部省補助金 600,000

預金金利 20,138

大会関係収入

114回大会出店料	90,000
115回大会出店料	90,000
111回～113回大会予稿集売上	154,000
114回大会予稿集売上	844,100
115回大会予稿集売上	759,500
114回大会予稿集超過頁代	30,000
115回大会予稿集超過頁代	20,000
合 計	1,988,100

雑収入

111号抜刷増刷代	11,834
112号抜刷増刷代	2,773
114回大会黒字寄付	30,000
学術用語集著作権料	297,675
換金手数料	10,000
コピーサービス (予稿集)	60
合 計	352,342

*換金手数料は、在外会員からの小切手換金料としての収入

◇支出内訳 (単位 円)

刊行費

	112号 (242p.)	113号 (208p.)	計 (450p.)
印刷費	2,871,330	2,467,920	5,339,250
抜刷代	81,270	51,660	132,930
合 計	2,952,600	2,519,580	5,472,180

*割付・校正料は印刷費に含む

印刷部数 各号共に 2,250 部

発送費 378,270

『言語研究』送料 (三省堂への送付料も含む・追加送料は含まない)

編集費

編集通信費	34,830
編集旅費・会議費	465,046
編集アルバイト費	45,000

合 計 544,876

事務委託費

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づき業務の代金

事務委託費	3,600,000
消費税	180,000

合 計 3,780,000

大会関係費

	第114回	第115回	計
プログラム版下作成費	66,360	80,000	146,360
プログラム印刷代	40,425	56,500	96,925
出欠葉書印刷費	28,875	21,525	50,400
プログラム発送費	158,980	188,360	347,340
大会費	300,000	307,582	607,582
OHP要否葉書代	2,500	3,750	6,250
講師謝金	30,000	40,000	70,000
予稿集印刷・増刷代	720,300	732,900	1,453,200
バックナンバー在庫表	0	9,030	9,030
合 計	1,347,440	1,439,647	2,787,087

委員会費

委員会会議費	188,200
委員会出欠葉書	19,840
小委員会会議費	22,100
小委員会通信費	1,520
合 計	231,660

常任委員会費

通信費	29,840
旅 費	234,400
会議費	99,392
合 計	363,632

C I P L負担金 100,000

選挙関係費 300,000 (積立金として定期Bへ)

名簿作成費 500,000 (積立金として定期Bへ)

通信費

切手購入費	136,100
国際FAX料金・銀行FAX料金	17,879
会費請求・督促状送付	65,180
受取小切手換金手数料・カード手数料・送金手数料	30,787
『言語研究』追加発送・抜刷発送・バックナンバー発送	27,685
委員会開催通知	12,000
発表採否通知・司会者依頼状など大会関係送料	66,635
その他（文部省提出書類送付等）	7,050

合 計	363,316
-----	---------

事務局費

文具費	3,711
通信費	44,420
アルバイト代	82,000
旅費・会議費	161,912

合 計	292,043
-----	---------

消耗品費

文具費	12,033
見積書・納品書・請求書	44,100
事務処理票	21,000
振替用紙・各種封筒・便箋	184,800
会費納入のお願い	5,250
入会のご案内・連絡票	21,000

合 計	288,183
-----	---------

雑費

選挙結果通知状	21,000
慶弔費・手土産代	7,801
学術用語集代	127,008

合 計	155,809
-----	---------

積立金 2,200,000（今年度積立金として定期Bへ）

日本語学会
平成9年度予算・実績対照表
収入

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
会 費	13,000,000	13,770,000	770,000
雑 誌 売 上	900,000	1,915,875	1,015,875
文 部 省 補 助 金	600,000	600,000	0
預 金 金 利	25,000	20,138	△ 4,862
大 会 関 係 収 入	1,000,000	1,988,100	988,100
雑 収 入	50,000	352,342	302,342
前 期 繰 越	3,884,130	3,884,130	0
収 入 合 計	15,575,000	18,646,455	3,071,455
合 計	19,459,130	22,530,585	3,071,455

△=実績-予算

支出

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
刊 行 費	6,700,000	5,472,180	1,227,820
発 送 費	450,000	378,270	71,730
編 集 費	600,000	544,876	55,124
事 務 委 託 費	3,600,000	3,780,000	△ 180,000
大 会 関 係 費	2,300,000	2,787,087	△ 487,087
委 員 会 費	300,000	231,660	68,340
常 任 委 員 会 費	400,000	363,632	36,368
C I P L 負 担 金	100,000	100,000	0
選 挙 関 係 費 積 立 金	300,000	300,000	0
名 簿 作 成 費 積 立 金	500,000	500,000	0
通 信 費	350,000	363,316	△ 13,316
事 務 局 費	400,000	292,043	107,957
消 耗 品 費	400,000	288,183	111,817
予 備 費	800,000	0	800,000
雑 費	59,130	155,809	△ 96,679
積 立 金	2,200,000	2,200,000	0
支 出 合 計	19,459,130	17,757,056	1,702,074
次 期 繰 越		4,773,529	4,773,529
合 計	19,459,130	22,530,585	△3,071,455

△=予算-実績

資産勘定

(単位 円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
(本部事務局)	(12,911,155)	前受会費	(331,222)
現金	899,867	国内個人	246,722
第一勸業銀行 普通	1,708,334	国内団体	7,000
定期A	5,000,000	在外個人	77,500
定期B	5,200,000	積立金	5,200,000
郵便振替貯金	102,954	未払金	2,682,280
受取小切手	0	次期繰越	4,773,529
カード	0		
(事務局)	(75,876)		
事務局口座	22,708		
常任委員会口座	53,168		
計	12,987,031	計	12,987,031

*未払金は、当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目

*平成9年度決算の未払金は「言語研究」第113号の印刷代、抜刷印刷代、発送代

第一勸業銀行 定期B

(単位 円)

選挙関係費積立金	300,000
名簿作成費積立金	500,000
前年度積立金	2,200,000
今年度積立金	2,200,000

合 計 5,200,000

〔別表2〕平成10年度 日本言語学会予算

自 平成10年4月 至 平成11年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	13,500,000	刊行費	6,700,000
雑誌売上	900,000	発送費	450,000
文部省補助金	600,000	編集費	600,000
預金金利	20,000	事務委託費	3,990,000
大会関係収入	1,200,000	大会関係費	3,100,000
雑収入	50,000	委員会費	200,000
		常任委員会費	500,000
		危機言語小委員会費	150,000
		夏期講座検討小委員会費	150,000
		C I P L 負担金	100,000
		選挙関係費積立金	300,000
		名簿作成費積立金	500,000
		夏期講座積立金	750,000
		国際関係積立金	750,000
		危機言語プロジェクト積立金	500,000
		記念大会積立金	250,000
		通信費	350,000
		事務局費	450,000
		消耗品費	400,000
収入合計	16,270,000	予備費	750,000
前期繰越	4,773,529	雑費	103,529
計	21,043,529	計	21,043,529

第116回大会

期 日 1998年6月20日(土)～21日(日)

会 場 慶應義塾大学(三田キャンパス)

第1日(6月20日)

公開講演会・総会 午後1時30分～5時50分

開会の辞

会 長

開催校挨拶

講 演 疑問の意味を表す名詞句について

西山 佑 司

パネルディスカッション 文法の脳科学

大津 由紀雄

乾 敏 郎

波多野 誼余夫

会員総会

会員懇親会 午後6時～8時

第2日(6月21日)

研究発表 午前9時30分～午後4時20分

○A 会 場

司会 前川 喜久雄

(A 1) 9:30～ 主格助詞「が」の鼻濁音化の条件 日野 資 成

(A 2) 10:00～ 川柳とプロ野球声援における「字余り」と 田 中 真 一
音節

司会 原口 庄輔

(A 3) 10:50～ An investigation of syllable structure on 米 山 聖 子
word processing in Japanese

(A 4) 11:20～ 心内辞書表示の音韻単位の個別性と普遍性 大竹 孝 司

(A 5) 11:50～ 幼児の言語習得過程における音韻現象に Yoko Takasu
関する一考察

一日韓バイリンガルの一幼児の事例を中心に一

司会 湯川 恭敏

(A 6) 1:30～ シベリア・ユピック語の語頭音節母音の 永 井 佳 代
二重化について

(A 7) 2:00～ 海岸ツィムシアン語の「分断母音」の解釈 笹 間 史 子
とその問題点

司会 坂本 勉

(A 8) 2:50～ Sentence Prosody in Japanese 廣 谷 昌 子

(A 9) 3:20～ 言語処理における節境界決定の曖昧性： 広 瀬 友 紀
要素の長さの影響についての検討 寛 一 彦

- (A10) 3:50~ 文処理方略としての名詞句からの外置 塩原 佳世乃
- B 会場
- 司会 井上 優
- (B 1) 9:30~ 命題態度副詞としての「どうも」の特性に 山田 陽子
ついて
- (B 2) 10:00~ 中国語の語気助詞「吧」の伝達機能 王 志英
司会 杉戸 清樹
- (B 3) 10:50~ Turn-taking (話者交替) によってどの 内田 ちら
ような意味が伝わるのか? :
メタコミュニケーションからの日英語比較
- (B 4) 11:20~ 日英語のディスコース・フレーミング 武黒 麻紀子
—命題内容とモダリティ要素のかかわり—
- (B 5) 11:50~ バリ語会話におけるインドネシア語への 原 真由子
コード切り替えが果たす敬語的機能
司会 崎山 理
- (B 6) 1:30~ スンバワ語の鼻音動詞 塩原 朝子
- (B 7) 2:00~ バンティック語の mapa- 形の機能 内海 敦子
司会 梶 茂樹
- (B 8) 2:50~ マテング語動詞の声調 米田 信子
- (B 9) 3:20~ タンベ語の音韻, 文法特徴について 本田 伊早夫
- (B10) 3:50~ ショナ語4方言における再帰接辞の 湯川 恭敏
アクセント
- C 会場
- 司会 角田 太作
- (C 1) 9:30~ コーランの物語テキストにおける 榮谷 温子
限定名詞句の用法
- (C 2) 10:00~ アパール語の相互代名詞 tsotsa- について 山田 久就
司会 田村 すす子
- (C 3) 10:50~ タイ語の虚構移動結果表現 (出現経路) と 高橋 清子
潜在的虚構移動表現 (範囲占有経路) の
機能と意味的制約
- (C 4) 11:20~ リトアニア語の習慣相過去テンスの意味と 櫻井 映子
機能
- (C 5) 11:50~ バスク語アスペイティア方言の《[+ERG] 吉田 浩美
[-ABS] 助動詞 du 活用》の構造に現れる動詞

- | | | | |
|-------|--------|---|--------|
| | 司会 | 坂原 茂 | |
| (C 6) | 1:30~ | 構文の決定要因に基づくフランス語の
代名動詞の用法分類 | 萩原 幸司 |
| (C 7) | 2:00~ | 英語の認識動詞と補文標識 that との
共起条件について | 家口 美智子 |
| | 司会 | 宮岡 伯人 | |
| (C 8) | 2:50~ | 水海道方言における経験者格の主語特性 | 佐々木 冠 |
| (C 9) | 3:20~ | ケチュア語クスコ方言における
「部分的な一致」 | 蝦名 大助 |
| (C10) | 3:50~ | イヌビアック語上コブック方言の斜格 | 永井 忠孝 |
| ◦D 会場 | | | |
| | 司会 | 菊地 康人 | |
| (D 1) | 9:30~ | 日本語の自動詞型「てある」構文について | 高橋 英也 |
| (D 2) | 10:00~ | 存在構文に基づくテイル (テアル) 構文 | 岡 智之 |
| | 司会 | 尾上 圭介 | |
| (D 3) | 10:50~ | 裸名詞の文脈指示的用法 | 秋月 高太郎 |
| (D 4) | 11:20~ | 語彙文法による経験的間接関与構文の分析 | 平川 八尋 |
| (D 5) | 11:50~ | 日本語アスペクト論によせて | 副島 健作 |
| | 司会 | 早田 輝洋 | |
| (D 6) | 1:30~ | マリ語後置詞考 | 松村 一登 |
| (D 7) | 2:00~ | 身体部分名称の比較からみた日本語と
オーストロネシア語族オセアニア語派との
親近性について | 大西 耕二 |
| | 司会 | 松本 曜 | |
| (D 8) | 2:50~ | 日本語と韓国語の受身文の使用に関する
一考察 | 許 明子 |
| (D 9) | 3:20~ | 一両国のテレビドラマの分析を通して—
時間のメタファーにおける移動様態動詞の
制約 | 篠原 和子 |
| (D10) | 3:50~ | 日本語を母語とする子供の語彙習得に
ついて | 櫻井 千佳子 |
| ◦E 会場 | | | |
| | 司会 | 高見 健一 | |
| (E 1) | 10:00~ | 非頭在的移動と範疇上昇 | 木村 宣美 |
| | 司会 | 三原 健一 | |
| (E 2) | 10:50~ | Economy Considerations and Wh-in-Situ | 吉田 智行 |

- (E 3) 11 : 20~ Unergative Predicates and Causativization: 中村 渉
The Case of Japanese
- (E 4) 11 : 50~ The Status of Head-Internal Relative 本田 謙介
Clauses in Japanese
司会 久保 智之
- (E 5) 1 : 30~ 日本語における可能構文の統語的分析 藤田 健
中村 裕昭
- (E 6) 2 : 00~ 日本語動詞補文における時制について 山岡 洋
司会 大津 由紀雄
- (E 7) 2 : 50~ 古典的類型論と比較統語論 酒井 弘
—日本語動詞形態の分析を通して—
- (E 8) 3 : 20~ Eliminating *-Features 北原 久嗣
- (E 9) 3 : 50~ Reducing the EPP to a Strong D-Feature 川島 るり子
of T: Subject and its Numeral in Japanese

◇ 退 会

国内会員 29名
維持会員 1名
在外会員 2名
団体会員 3件

◇ 本学会評議員河野六郎氏は、平成10年10月7日に死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇ 本誌は、文部省平成10年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。